

【代表者】

代表取締役社長 王 波 氏

【本社住所】茨城県

つくば市千現一丁目14-11

【設立】平成17(2005)年

【資本金】1000万円

【従業員数】18名

男性15名(正規:14名)、
女性3名(正規:3名)

うち、外国人7名(男性正規5, 女性正規2名)

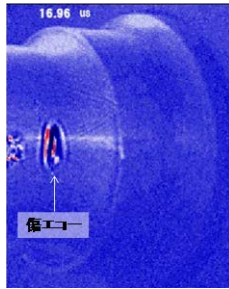
【事業内容】超音波可視化非破壊検査装置、X線非破壊検査装置の開発・製造・販売等

【HP】<http://www.tsukubatech.co.jp/>

■インタビュー対応者■

代表取締役社長 王 波 氏

同席：(株)つくば研究支援センター研究支援部次長 高田 青史氏

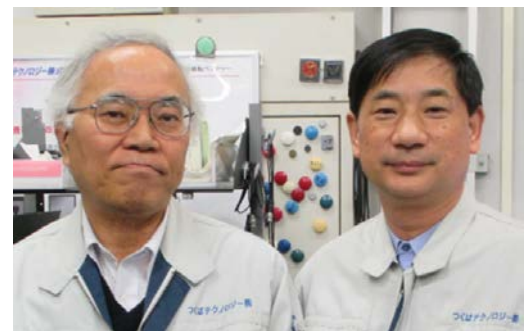


車軸の欠陥可視化画像

装置」は、日本国内では航空宇宙、発電施設関連に5台納入実績があります。中国にも3台納入し、今後も納入予定があります。これまでの10倍以上のスピードで検査可能であり、検査対象物が高温や危険物である場合、人が近づけない位置にある場合でも検査可能です。レーザーの発振は10メートル、受信は2メートル離れていても可能です。将来は、発振・受信ともに数十メートル離れていても検査可能にすることを目指しています。例えば、当装置により原子力発電所では2人がかりで8時間を要する検査が1人数十分でできるようになりました。また、通常プラントを停止して検査していた場合でも、停止させずに稼働したままの検査も可能です。そして、電子部品の検査についても、従来は、水中で測定するしかなく、抜き取り検査となっておりましたが、当社装置では空气中で検査を行うため全数調査が可能です。また、検査対象が非常に大きい航空宇宙関連や放射能で近づけない原子力関連施設の検査にも貢献しています。

もう一つの中核製品は「X-RAY INSPECTOR(小型X線検査装置)」です。こちらは主に電線、石油プラント配管検査、コンクリート検査等に使用する装置です。X線を作り出すには陰極を加熱することが必要で、かつ、装置は大型であり、X線が出るまで時間がかかるのが通常ですが、当装置は小さく、軽く、電池一本で直ちにX線が発生するという画期的な装置です。小さいので持ち運びも可能です。例えば、高压電線の検査は、これまで電力事業者の職員が高所に登り、調べていましたが、リモコンで自走式にすることで、取り付け時以外は人が高所に登らずに検査が可能となります。また、ポータブルCT検査装置(20kgで持ち運び可能)や単三電池一本で検査ができるポータブルX線医療検査装置などを開発中です。

経営理念は、①誠実守信 ②求真創新 ③発展貢献です。誠実とは、嘘をつかず、取引先に当社は何ができて何ができないか、しっかり伝えることです。守信とは信用を必ず守ることであり、話したり伝えた事は必ず守ることで。そして、真実を追求し、新しい物、イノベーションを目指し、当社の技術で社会に貢献することを目指します。



高坪取締役

王社長

1. 企業概要について

当社はレーザーを照射して生じる超音波で内部欠陥や異常を検知する「レーザー超音波可視化検査装置」や省電力の「小型X線検査装置」等の開発、製造、販売を行っています。両装置とも自動車、航空機、発電プラント、造船、鉄鋼、電子部品など様々な分野で非破壊検査をする装置です。当社装置の強みは、検査対象物と「非接触」な状態で検査可能であることと、併せて、超音波伝搬の「可視化」に成功したことです。通常、超音波検査では、波形を見て状態を判断するため、資格を持った専門家でないと扱えないのですが、当社は世界で唯一、超音波が実構造部材を伝わる様子を可視化する技術を確認しましたので、数時間のトレーニングを受けることで誰でも検査が可能であり、人を育てる費用や時間がかかりません。

私は、中国漢中市で生まれ、1982年に西安電子科技大学を卒業後、1993年に筑波大学大学院に研究生として留学しました。その後、2001年から工業技術院・産業技術融合領域研究所(現・産業技術総合研究所(以下、産総研))に研究者として勤務しました。研究に従事する中で「技術で社会貢献したい」との強い思いから、現・取締役の高坪氏と一緒に2005年7月に有限会社として当社を立ち上げ、今に至ります。2007年7月には株式会社に組織変更し、増資、2007年11月には「産総研技術移転ベンチャー」の認定を取得しました。2006年には日本非破壊検査協会奨励賞、2007年には日本可視化情報学会学会賞(技術賞)、2014年にはジャパンベンチャーアワード(JVA2014)中小機構理事長賞を受賞することができました。

当社の事業の中核である「レーザー超音波可視化非破壊検査

●レーザー超音波可視化検査装置(LUVI-SP2)



●小型X線検査装置(X-RAY INSPECTOR)



2. 海外人材採用のきっかけ・時期・受入準備等について

海外人材は、全員、留学経験者です。自分自身も留学生であり、国籍に拘らない採用を進めています。産総研の研究者からの転職者も多くなっています。社内の公用語は日本語です。特に、受入れ準備などはありません。皆、自主的に学び、研究開発に取り組む素晴らしい人材です。

3. 海外人材の活躍状況等について

現在、海外人材は全員、理系の大学院卒業の研究者と技術者ですが、経理や人事、営業などの仕事もしなくてはならず、一人何役もこなしています。薬剤師の資格を持つ経理の楊さんは、経理担当だからこそ見えてくる利益率等のデータを基に、当社の発展、成長のために何が必要かを分析し、提案してくれます。

当社メンバーはこちらからいわなくても自発的に取り組んでくれる優秀な人材です。

4. 海外人材採用ルート及び選考方法について

人材募集については、各方面で支援をいただいている株式会社つくば研究支援センター（TCI）の人材マッチングHPやハローワーク、当社HPに募集案内を出します。書類選考を経て、役員面接を行います。面接で確認しているのは自主的にスキルアップしようとする人かどうかという点と、交流ができて楽しく仕事ができる人かどうかという点です。そして、そのやる気のある社員を応援するのが会社であると思っています。



TCI 高田次長

王社長

現在、国籍問わず毎年5人程度を採用していますが、当社製品がJIS基準となった場合には製造部を作り人材を更に増やしたいと考えています。直近では2014年4月にはソフトウェアの専門家と営業分野の人材を採用予定です。現在、営業のメインは日本国内ですが、中国は私自らが営業しています。

5. 社内全体の人材戦略について

(1) 社内人材の能力を活かす具体的な取組み

人材育成については、外部研修にも必要に応じて積極的に参加してもらっています。また、研修に係る費用は会社として負担します。X線作業主任者の資格取得後には社内でお祝いパーティーを実施します。与えられた仕事をきちんとこなせば、勤務時間中でも資格取得に向けた勉強は可能です。資格が取れば給料も上がります。そして、自分の仕事を社内に説明するため、パワーポイントで資料を作成し、発表する場を設けています。発表能力と質疑に対応する能力の育成、そして社内での業務内容の共有を目指しての取組みです。当社の社員は協力し、学び、知識を広げ、増やす努力をしています。社員の知識や技術が融合して、新しい技術、イノベーションが生まれていくのです。

(2) 労働制度面等からの支援（休暇制度等の整備状況）

産総研の給料体系や休暇制度等を参考に当社制度を作成し、運用しています。

6. 今後の事業展望と人材戦略（人材確保・育成）について

(1) 今後の事業展望（方向性）

更に微細な欠陥の検出や装置の小型化など改良に取り組むとともに、国内での営業を強化するため、2014年3月には東京営業所を開設します。海外については、中国、香港地区、シンガポール等への進出を目指し、アメリカ、ヨーロッパの販売代理店との契約も進めています。そして、装置販売後のメンテナンスが大切であるため、将来は関西も含め全国にアフターサービス事業も展開したいと考えています。更には、高エネルギー加速器研究機構等の研究機関のプロジェクトにも貢献していきたいと思っています。

(2) 人材確保・育成にかかる方向性と課題

ベンチャー企業であるため、基本的には即戦力を採用したいと考えていますが、博士課程、修士課程、学部卒の新卒人材も採用していきたいと考えており、筑波大学、茨城大学の新卒説

明会に参加予定です。当社の平均年齢は40歳であり、今後は若手の確保や育成にも力を入れたいと考えています。海外の大学や国際的機関から、インターンシップの受入企業として当社を登録させて欲しいという打診があり、登録したところです。今後、是非、受入れしたいと考えています。

■海外人材の皆様へインタビュー■

【お名前】楊 姍姍 さん

【出身地】中華人民共和国 遼寧省 瀋陽市

【日本での出身学校名等】

国立大学法人大阪大学大学院 薬学研究科

○日本に留学したきっかけ：

母の勧めで中高一貫の中学を受験し、合格しました。たまたま日本語クラスになったのが日本語を学ぶきっかけでした。最終的に中高の6年間日本語を学びました。私は1999年7月に卒業し、同年10月から半年間、関西語言学院で更に日本語を学び、その年の12月に留学生統一試験を受け、大阪大学の入学試験に合格し、2000年4月に大阪大学薬学部に入學しました。病気や薬や生物に興味があったため、結果的に薬学部を選択し、学部4年と修士課程2年間学びました。

○就職活動方法：

日本で就職した理由は、日本で6年間勉強したことを活かし日本で働きたいと思ったからです。両親も応援してくれました。大学院卒業後は、日立製作所に研究職で就職し、最初の勤務地は埼玉県でした。結婚後、日立製作所を退職し、薬剤師として働いていました。その後、夫の転職でつくばに引越し、経理に興味があり、簿記の勉強を始めました。朝4時に起きて勉強し2012年11月に3級を取得しました。丁度、当社の求人を見て、2012年12月に採用面接受験し、2013年1月に経理担当として正式採用となりました。簿記については、その後も勉強を重ね、2013年6月には2級を取得しました。薬学、簿記と分野は異なりますが勉強の考え方は同じです。単純な知識だけではありません。これまで学んで来たことは、経理の仕事に活かせる部分があります。

○夢や今後の意気込みなど：

3歳の子供がいるため育児もあり、自分の時間があまり取れませんが、家族の笑顔が、仕事を続ける原動力となっています。家庭も仕事も両方大切にしたいと考えています。当社に勤めて1年余りになりますが、子供は熱も出さず頑張ってくれています。当社は、新しいことに積極的に挑んでも良いという風土があります。薬学の知識を活かした医療装置の開発や経理の仕事頑張っていきたいと思えます。経理や会社管理のルール作りは非常に大事な事であり、未経験の領域もありますが、勉強しながら当社を大きな会社に成長させ、自分自身も成長していきたいと考えています。



楊さん

■経済産業省施策活用実績■

○平成23年度戦略的基盤技術高度化支援事業

○平成24年度補正イノベーション実用化ベンチャー支援事業